

2006年度 EUIJ スカラーシップ報告書

武田 歩（一橋大学大学院社会学研究科博士課程）

派遣期間：2007年2月19日~2007年3月24日

EU 統合プロセスとヨーロッパにおける非 EU 国出身の移民・難民問題 ドイツにおけるクルド系移民の政治・文化的活動に注目して

EU 統合の進展に伴い、EU/シェンゲン条約加盟国間でヒト・モノ・情報の移動の活発化が推進される一方、EU 市民と非 EU 国出身の移民・難民の格差問題が浮上している。旧 EU 加盟国を中心に共通の移民・難民政策の枠組みが模索されているが、市場における安価な労働力需要という現実と EU 憲法の本質である普遍主義的な人権擁護の理念が、トルコの EU 加盟問題を初め、EU・各構成国・地域社会など様々な水準での政策決定に影響を与えている。

私はヨーロッパにおいて現在最も大きなディアスポラ集団を形成する「クルド人」のトランスナショナルな空間形成と、彼らの受入国地域社会、特にドイツにおける「統合問題」を研究している。20世紀初頭から、トルコ、シリア、イラン、イラクの国境をまたぐ「クルディスタン」地域は、イスラエル パレスチナ紛争と並ぶ中東地域の潜在的な紛争の焦点となってきた。そして同時に、この地域からヨーロッパへ、留学生・労働者・難民・政治亡命者として「クルド」の出自を持つ人々の移動も開始された。社会主義体制だった東欧・東ドイツへはイラク・シリアからの留学生が、1960年代に深刻な労働力不足に陥った西ドイツへは多くの「トルコ人労働者」が渡航した。一般に70年代後半に生じたドイツでのトルコ出身移民の定住化・家族の呼び寄せは、ホスト社会における労働運動への参加から、自身のエスニック・宗教的アイデンティティの拠点の構築へと関心をシフトさせてきたが、この中でクルド系移民は「認知されない/迫害されるマイノリティ」として、ホスト社会で多様な文化的・政治的活動を行ってきている。

この問題領域を、私は以下の四つの象限に分類している。すなわち、EU統合とトルコ加盟問題 トランスナショナルなクルド・ナショナリズム ローカルな社会におけるクルド系移民の活動 ホスト社会の「外国人政策」「移民統合政策」である。これらは、ドイツ憲法やEUの理念に通底する普遍主義と、ホスト社会・移民/難民における複数の文化的・政治的な特殊主義的要求の調停の試みとして捉えることができる。今回は、ドイツにおけるクルド系移民の組織化とホスト社会における統合政策に焦点を絞り、各組織への聞き取りと行政資料の収集による調査を行った。

【実際の調査内容】

クルディスタン協会連盟 Verband der Vereine aus Kurdistan (KOMKAR) : ヴッパータール市本部で2回の聞き取り調査

KOMKAR では、活動内容及び現在認識している問題点について詳細な聞き取り調査を行った。KOMKAR は1974年から組織化された最も古いクルド系協会連盟であり、「外国人労働者」として渡航したクルド系住民とその家族、2世・3世を主な対象としている。ドイツ社会に彼らが良く「統合」されるために不可欠な「クルド語」「クルド人」としての公的な承認が得られないことに、父母が子供に積極的な「クルド語」教育を受けさせないような構造的再生産の問題があることを指摘されていた。また同市で開催された新年の祭りである「ネヴロズ」へも招

待頂き、トルコからだけでなくシリア・イラク出身のクルド系移民との文化的連携が行われていることがわかった。

在ドイツクルド協会連盟 *Föderation Kurdischer Vereine in Deutschland*(YEK-KOM) : ドゥッセルドルフ市本部で各1回の聞き取り調査

1993年に発足した YEK-KOM では、主に「庇護申請者」としてドイツへ渡航した難民の支援（弁護士紹介）と、文化的・社会的活動の組織化を行っている。1993年にドイツをはじめ多くの西欧諸国で PKK が非合法化されたことで、「難民」としての適格性と「非合法」活動従事への認定は、普遍的人権問題と治安問題が交錯し相矛盾する領域となっていることが聞き取りの中で指摘された。また、女性支援のための姉妹組織であるジェニ Ceni では、Ter de Femm(仏)、Sozial Forum(独)、Selis(ディヤルバクル/トルコ)、Van KadınDerneği(ワン/トルコ)と協力し、毎年異なるテーマで討論会を主催し、2006年度のテーマは「名誉殺人」であり、クルド社会に内在する問題への啓発活動も行われていた。

クルド・センター *Kurdisches Zentrum (Berlin)* : 設立者への1回の聞き取り調査

1984年に設立されたクルド・センターは、ベルリン市で最も古いクルド系協会である。ガストアルバイター世代とその2,3世がドイツ社会によりよく参入できるように「文化的・社会的」活動を行うことを目的とし、やの大規模な協会連盟とは独立し、ドイツ社会側 - 超教派福祉連盟 *Deutsch Paritätische Wohlfahrtsverband: DPWV* やフリードリッヒスハイン・クロイツベルク区当局から資金援助を受けている。聞き取り調査の中で、ドイツ教職員組合(GEW)との協力関係が公教育における「クルド語」授業の開設にあたり重要であったとのことだった。しかし生徒数の規定が壁となり、現在クルド語授業は行われていない。

ヒンブン : 女性と家族のための教育支援センター *Hinbun: Bildungs- und Beratungszentrum für Frauen und ihre Familien (Berlin)* : 代表者への2回の聞き取り調査

ヒンブンはベルリン市シュパンダウ区の女性移民・難民支援のための中核的センターであり、福音派協会の監査を通じベルリン市労働参事会から全ての活動資金を提供されている。設立代表者はトルコ出身のクルド女性であるが、センターの利用者及び職員もクルド・トルコ系女性に限らない。また聞き取りから、ヒンブンの活動は女性のための識字教育、ドイツ語教育、戦時性暴力の被害者支援、ドイツ社会のオリエンテーション活動からドイツ警察への職業教育まで行って来たことがわかった。

他、クルド研究のセンターである *Kurdologie (Berlin)* と *NAVEND (Bonn)* では、ドイツにおけるクルド系移民・難民研究の貴重な資料を提供していただいた。また、ベルリンの移民局 (*Ausländerbeauftragter des Senats*)ではベルリンにおける移民関係の統計・分析資料を収集した。

【調査成果】

今回の調査で明らかになったのは、ドイツという連邦制国家において、各州、都市の移民・難民政策の相違がクルド系移民の組織化に影響を与え、各組織の制度化が移民組織のドイツ社会への統合を実現しうる経路として機能していることである。その際には、「クルド」という名称を巡る象徴的なコンフリクトがドイツ - トルコの間で生じている場合が多い。だが、これらのホスト社会における移民組織の組織化構造は、非EU国出身者、及びマイノリティの政治を考察する際に重要な点となると考える。

最後に、今回調査に協力して下さった関係者各位に厚く御礼申し上げますとともに、このような貴重な機会を与えてくださった EUIJ にも心から感謝している。今回の調査結果と経験を今後の博士論文執筆に結びつけ、その成果を EU における移民・難民研究に寄与させていきたい。